

第二部

一 ふた言、こと

三 み言、こと

世 よ迷 まい言 こと

ミレニアムの年もいつの間にもやら残り僅か。明ければ新年こそは、新千年期の、そのまた第一新世紀（二十一世紀）の第一年目。まさにまさしく、大新年を迎えるのである。何たる僥倖、千年に一度しかない世紀の節目を越えて、さらにさらなる世紀を生きる私たちは、理屈がつこうとつくまいと、これを天なる神からの恩寵と思つべきではあるまいか。さすれば、いつも（例年）と異なり、せめて日記のひとつくらいは書くほどにこと改まらねば、それはあまりに罪深く、天にも恥じる行為であろう。

と、物書き好きの心理学者の端くれがこのたびばかりは一念発起、色々様々こと企てた。その事始めが、日記代わりのこの「つれづれ世迷い言」集である。

誰に読ませるわけでもなく、「演歌つれづれ」なるエッセイで、前半生を独りよがりによく切なく振り返ってきた。それが本年初頭に切りよく終わって物書き気分がしばらく退潮していたが、今はほどよく戻って海潮よろしく上げ始めた。頃合、気分、ともによし。ここではちよっぴり世間を向いて、甘口・辛口・減らず口、思いの丈を語ってみたい。